

岩事研広報

No.213

編集・発行

岩手県公立小中学校

事務職員研究協議会

総務部

令和4年3月14日

第2回支部代表者会

期日：令和3年12月3日

会場：矢巾町公民館

第2回支部代表者会では、各部活動報告を行いました。
主な報告内容は、以下のとおりです。

総務部：岩手県公立小中高等学校事務職員連絡協議会報告、
資料センター整理、財務関係報告、広報発行

研修部：第50回研究大会Web配信の視聴状況及び成果と
課題、第51回研究大会、第3回全体研修会

研究部：「第2期みんなのできる実行策」と「アクションプラン（行動指標）」策定の取組、
研究者との連携、県事研調査、全事研調査、第24回東北大会福島大会

第50回研究大会に係る成果と課題の詳細は、大会報告書をご覧ください。なお、報告書は、各支部へデータにて配付されているほか、県事研HPに掲載しております。



東北地区公立小中学校事務研究大会岩手大会実行委員会準備会

2回目の東北地区公立小中学校事務研究大会岩手大会実行委員会準備会が行われました。

本準備会では、令和4年度に正式に発足する岩手大会実行委員会組織についてのほか、令和6年度東北大会岩手大会の概要及び今後のスケジュールの協議が行われました。

今後も会員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

東北地区公立小中学校事務職員研究協議会功労者表彰

令和3年度東北地区公立小中学校事務職員研究協議会功労者として、花巻市立西南中学校 菅原 信 氏（前東北事務研副会長）が表彰されました。

副会長として令和元年度から令和2年度まで歴任し、東北地区事務研究の発展にご尽力されました。誠にありがとうございます。



第53回全国公立小中学校事務研究大会埼玉大会（オンライン開催）

令和4年1月11日（火）～令和4年2月18日（金）まで、第53回全国公立小中学校事務研究大会（埼玉大会）がオンラインにて開催されました。

<大会テーマ> 子どもの未来を創造する地域協働

— 彩の国からハッシン(発信・発進)、令和の時代の地域の協働 —

「文部科学省行政説明」及び「支部研究提案」の要旨や視聴した感想を掲載しました。支部研究提案は「山形支部」「栃木支部」「群馬支部」「千葉支部」「山梨支部」「埼玉支部」の発表があり、その中からいくつかご紹介いたしますのでご覧ください。



<文部科学省行政説明> 文部科学行政をめぐる最近の情勢について

文部科学省大臣官房 学習基盤審議官 茂里 毅 氏

①学校事務に関わる政府の動き

国が目指すデジタル社会「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会」

→実現に向けた施策：校務のデジタル化・教育データ利活用・プログラミング必修化

○GIGAスクール構想 ○「そろえる」教育から「伸ばす」教育へ ○こども家庭庁の創設

②文部科学省の施策など

○ICT活用：ICT環境活用支援の充実（GIGAスクール運営支援センター整備など）等

○少人数学級・小学校高学年における教科担任制：35人学級の推進（令和4年度は第3学年）等

○学校における働き方改革：教職員定数の改善、部活動の見直し、教員免許更新制の検証等

○感染症対策 ○性暴力等の防止

全国には3万6千人の事務職員が配置されている。新型コロナ感染症対策やデジタル改革、働き方改革など様々な課題があるが、チーム学校で一緒に取組み、力を合わせて乗り越えていきたい。

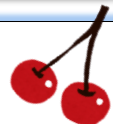
文部科学省行政説明を視聴して 大船渡市立大船渡小学校 主事 佐藤 唯 さん

本校における喫緊の課題はなにかと考えたとき、「コロナ禍の中、子どもたちの安全や学習をどう保障していくか」や「教職員の働き方の改善」などを思い浮かべました。説明の中でもその課題が取り上げられており、学校単体の課題ではないのだなと感じました。自分が思い浮かべた課題は学校が抱える課題のほんの一部であり、文部科学省はその解決のために様々な施策を行っています。

その施策の分野ごとの説明では、「学校組織における唯一の総務・財務に通じる専門職」として、私たちに求める役割についても触れられました。ICT活用支援として端末等ハード面の整備や維持管理、教科担任制の推進に係る人事関係業務、働き方改革に向けた業務改善の推進、感染症対策のための物品の管理や調達など、その業務は多岐にわたっています。業務量を思うと不安になりましたが、説明の最後の「チーム学校には文科省も入っています。」という言葉に、ハッとしました。学校職員だけでなく、たくさんの大人の思いがあり、子どもたちは支えられています。その大人の一人として求められていることを、少しでも多く行いたいと今回の説明を視聴し、改めて思うことができました。

<支部研究提案：山形支部> 「未来の創り手である子どもの育ちを支援する学校事務」

— 持続可能な、地域と学校をつなぐ人になる —



目指す事務職員像が少しずつ変化する中で、活動の方向性を指し示す研究ビジョン「やまがた花笠プラン」を新しい時代に即した形に改定することにより、未来の創り手である子どもの豊かな学びと育ちを支援する取組を追求していく。

○「花笠プラン」Revision2019のキーワード：ともに(協働)かかわり(連携)つなぐ(調整と継承)

○活動のための3つの柱「専門性」「主体性」「積極性」

○地域協働のための2つの実践例

・自校の学校紹介と地域紹介(米沢市共同実施)

地域の特徴、教育目標達成のための特色を調べ、まとめたものを持ち寄って発表し合った。

→地域と学校を理解する事務職員となり、それぞれを「つなぐ」役割を担う。

・お待たせしない窓口チャームを作ろう！(村山地区A小学校)

校内の物品を活用しながら、児童とともにプログラミング学習による知識を活用することで、学校独自の窓口チャームを作成した。

→児童と「ともに」「かかわる」ことで、地域と学校を「つなぐ」窓口チャームを開発できた。

より良い方向を目指し、様々な立場の人が知恵を出し合い工夫しながら、課題を解決していく経験を積み重ねることが大切である。私たち事務職員は、これからの積極的に学びに向かい、校内や地域の人にその姿を発信していく。

山形支部研究提案を視聴して 野田村立野田小学校 主事 丹野 愛永 さん

山形県事務職員を対象に調査したアンケートでは、7割が「地域協働に関わっていない」と答える一方、8割が「事務職員が地域協働にかかわる必要があると思う」という回答結果で、山形県内の多くの事務職員がジレンマを抱きながら業務を行っていることが印象的でした。また、アンケートの自由記述では「地域連携に関わる校務分掌に事務職員の割当てが無いので、PTA組織や同窓会などの役職に事務職員を配置することで、事務職員の存在を地域の方に認知してもらえるのではないか」という組織改革を求める声から切実さが伝わってきました。発表者が方言でフリートークをする場面もあり、地域連携について身近に、そして積極的に向き合っている姿に刺激を受けました。

今すぐ新しく取組むことは難しいですが、電話対応やPTA会計など日々の「つなぐ」業務に対して改善点を探しながら丁寧に行うことで、「専門性」「主体性」「積極性」を養っていきたいと思いました。



<支部研究提案：千葉支部> 「みんなの願いをカタチに」

－総合的判断力をもった事務職員の戦略的な情報発信－

千葉県学校事務研究協議会の目指す事務職員像とは、経営資源（人・物・金・情報）のマネジメントを行い、学校の経営機能を高める役割を果たす基幹職員であると捉え、「学校教育の進展及び教育環境整備に寄与できる総合的判断力をもった事務職員」としている。

今大会では、「事務職員が学校内外の現状や資源を見極め、情報マネジメントを行い、戦略的に情報を発信することで地域協働につながり、子どもの豊かな学びや育ちを支援することができる」という研究仮説を立て、「マネジメントを効果的に機能させる段階的な情報発信」「地域協働による双方向の情報発信」の2つの視点から地域協働に必要な学校事務機能について考え、発表した。

学校事務をつかさどる事務職員として、地域全体で子どもの幸せを考え、みんなの願いを「カタチ」にしていくために今後も研究を推進していく。

千葉支部研究提案を視聴して 宮古市立山口小学校 主事 寺下 賢希 さん

発表を視聴し、事務職員が積極的に保護者や地域に情報発信を行っていることに驚きました。学校行事等の情報発信（メール・学校便り）などは、管理職や教務主任、もしくは地域支援コーディネーターが発信しているイメージが今までありましたが、今回の発表では、事務職員が学校HPを管理し情報発信を行っている事例があり、そのことにより双方向（学校⇄保護者・地域など）からの情報発信が促され、お互いの「信頼」につなげる、戦略的な情報発信に一役買っていることに感心しました。

宮古市では、次年度からコミュニティ・スクールの設置があり、事務職員がいかにして参画していくか、課題はあると思いますが、「戦略的な情報発信」を行っていくために情報をマネジメントし、かつICTを駆使し情報発信を行っていくためにも、今回の研究発表を視聴できたことは、とても有意義でした。

<支部研究提案：埼玉支部> 「未来を創る子どもたちのために事務職員が果たす役割」

－「総務」「財務」の面から学校と地域をつなぐ－

埼玉支部では「埼玉の学校事務グランドデザイン～彩の国コバトプラン～」において、目指す事務職員像を「学校の内外をつなぎ広げ、学校力を高める事務職員」と定め、研究している。以下の3つが事務職員として果たすべき役割であり、職位に応じて取組んでいくことが求められる。

○地域との良好な関係の構築（総務）

○事務職員として説明責任を果たす（財務）

○目標達成に向けて行う諸活動と学校内外の資源を結びつける（総務+財務）

総務・財務に通ずる事務職員が、地域とともにある学校づくりにおいて様々な役割を担うことで、地域と学校をつなぎ、子どもたちに豊かな学びの場を整えることができる。

また、現在の研修制度の在り方を考えることによって、実際に役割を果たせるようになるまでの道筋を探り、今後の事務職員として必要な力量と知識を身に付けていくことが重要である。一人一人が責任を持って役割を果たすことができるよう、学校事務の在り方を今後も追究していく。



埼玉支部研究提案を視聴して 一関市立興田小学校 主事 佐藤 美加 さん

埼玉支部は、事務職員がコーディネーターとして学校と地域の連絡・調整や資源の確認・調達の役割を担うことで、地域とともにある学校づくりにつながるという実践例と検証についての発表でした。培ってきた経験・知識を地域との関わりで生かしていくことの重要性を感じ、興味深く拝聴しました。

私は、なかなか発表にあるような地域協働に関わる実践はできていませんが、経験年数に応じた例を参考にして業務にあたっていきたいと思いました。総務の面では、電話・窓口での適切な対応、学校の行事予定の把握。財務の面では、学校予算や物品の適切な管理。総務・財務の面では、教育課程と学校予算や物品を関連付けて整理する。基本的なことですが、学校の内外をつなぐためにできる範囲で行うことが必要だと感じました。

これからの時代において、学校と地域が一体となった取組が求められています。地域と学校をつないでいくために、事務職員として何をすべきか考えていきたいと思っています。

各種研究大会等案内

< 第3回 岩手県公立小中学校事務全体研修会 >

期 日：令和4年9月2日（金）
会 場：盛岡市 いわて県民情報交流センター アイーナ
日 程：9時30分～16時30分※予定
内 容：全体研修会、職層別研修※予定

< 第24回 東北地区公立小中学校事務研究大会福島大会 (兼 第37回 福島県公立小中学校事務研究大会) >

期 日：令和4年10月6日（木）～ 令和4年10月7日（金）
会 場：郡山ユラックス熱海、ほっとあたま、ホテル華の湯
[大会テーマ]

新時代の学びを主体的にマネジメントする学校事務

～連携と協働を展開し、子どもの豊かな育ちを支援する学校事務職員～

「第1分科会」及び「第5分科会」が岩手県発表枠となります。

第50回岩手県研究大会発表支部の「盛岡支部・岩手支部・胆江支部」による発表です。

岩手県分科会発表の内容は、「いわてのグランドデザイン～みんなでできる実行策～にかかるとる研究及び発表の取組について」です。

< 第54回 全国公立小中学校事務研究大会愛媛大会 >

期 日：令和5年1月26日（木）～ 令和5年1月27日（金）※予定
会 場：愛媛県松山市

<キャッチフレーズ> 愛顔咲く ゆめ・人財（ひと）湧くワク い～予感

< 編集後記 >

今年度の岩事研広報は本号が最後となります。1年間会員の皆さまからのご協力のもと、発行することができました。本当にありがとうございました。

来年度の岩事研広報も、より充実したものにいたします。

最後までお読みいただきありがとうございました。

